

大型スペクトログラフ共同利用実験とその成果

東 正 一

世界最大規模の生物学用分光照射装置である大型スペクトログラフは、基礎生物学研究所の主力共同利用施設として 1980 年 3 月に完成し、1981 年度より「大型スペクトログラフ共同利用実験」制度のもとに述べ国内約 600 グループ、国外約 30 グループの研究者に開放されて、他分野にわたるユニークな成果を生んできた。

平成 15 年 3 月には高度化工事が行われ、既設機の改修とともに新規にレーザー照射装置や、二光子顕微鏡なども設置され、より精度の高い照射実験・解析が可能となった。

今後とも共同利用実験を続けより精度の高い機器の開発導入を進めるとともに効率の良い運用を目指し、世界に開かれた施設としての運用を目指しています。

なお、成果論文リストは大型スペクトログラフ室のホームページ

<http://www.nibb.ac.jp/%7Elspectro/papers.htm>

<http://www.nibb.ac.jp/%7Elspectro/reviews.htm>

に掲載されております。こちらをご覧くださいいただければ幸いです。

10 年毎のデータ

年	件数	研究者数	成果論文数
S 5 6 - H 2	246(13)	461	65
H 3 - H 1 2	265(10)	695	105
H 1 3 - H 1 8	122(8)	353	38
計	633(31)	1509	208

() は海外からの申請件数

(2006 年のデータによる)